

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

資料1	進路に関する学生アンケート（1回目） 2021年11月（アンケート様式、集計結果） (食農学類1～3年生対象)	2
資料2	進路決定時期に関する学生アンケート 2021年12月（アンケート様式、集計結果） (食農学類3年生対象)	5
資料3	進路に関する学生アンケート（2回目） 2022年1月（アンケート様式、集計結果） (食農学類1～3年生対象)	7
資料4	福島大学大学院経済学研究科 「ふくしま未来食・農教育プログラム」概要	12
資料5	企業・団体への聞き取り調査 食農科学研究科に対する地域からの意見	14
資料6	研究科設置計画案に関するアンケート 2022年2月（アンケート様式、集計結果） (福島大学食農学類産官学連携会議会員事業所対象)	18
資料7	大学院再編に関するアンケート 2021年11月（アンケート様式、集計結果） (企業・団体等向け)	28

資料1 進路に関する学生アンケート（1回目）（食農学類1～3年生対象）

食農科学研究科 在学生向けアンケート（2021年11月）設問

食農学類では2023年4月設置をめざして「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）の設置準備を進めています。主な内容はスライド資料の通りです。また、Q&Aについても資料を用意しています。

回答の集計にあたっては個人名が特定できないよう扱います。

来年1月に、再度アンケートを実施する予定です。現時点での正直な考えを教えてください。

問1 あなたの学年を教えてください。

- 1年
- 2年
- 3年

問2 2, 3年の人はあなたが所属するコース、1年の人は希望のコースを教えてください。

- 食品科学
- 農業生産科学
- 生産環境科学
- 農業経営科学

問3 あなたの性別を教えてください。

- 女
- 男
- 無回答

問4 あなたは学類卒業後の進路として、大学院への進学と就職のいずれを予定していますか。

- 1. 進学
- 2. どちらかと言えば進学
- 3. どちらかと言えば就職
- 4. 就職
- 5. いずれでもない

問5 問4で「1.」又は「2.」と回答した方にお伺いします。進学先としてどこを希望していますか？

- 1. 食農科学研究科（仮称）
- 2. 福島大学の他の大学院
- 3. 他大学の大学院

他大学の大学院への進学を考えている方は研究科名を記入して下さい。

問6 新研究科へのご意見・ご要望がありましたら自由に入力してください。

食農科学研究科 在学生向けアンケート（2021年11月）＜集計結果＞

	1年生	2年生	3年生
総回答数	96人	92人	87人
a:大学院進学	14.6%	7.6%	26.4%
b:どちらかといえば進学	17.7%	23.9%	8.1%
a+b	32.3%	31.5%	34.5%
食農科学進学希望実数	7人/96人	11人/92人	17人/87人
食農科学進学希望率	7.3%	12.0%	19.5%

(n=275)

問1 あなたの学年を教えてください。

1年	96 (34.9%)
2年	92 (33.5%)
3年	87 (31.6%)

問2 2, 3年の人はあなたが所属するコース、1年の人は希望のコースを教えてください。

食品科学	86 (31.3%)
農業生産科学	77 (28.0%)
生産環境科学	58 (21.1%)
農業経営科学	54 (19.6%)

問3 あなたの性別を教えてください。

女	145 (52.7%)
男	127 (46.2%)
無回答	3 (1.1%)

問4 あなたは学類卒業後の進路として、大学院への進学と就職のいずれを予定していますか。

1. 進学	45 (16.4%)
2. どちらかといえば進学	47 (17.1%)
3. どちらかといえば就職	83 (30.2%)
4. 就職	92 (33.4%)
5. いずれでもない	8 (2.9%)

問5 問4で「1.」又は「2.」と回答した方にお伺いします。進学先としてどこを希望していますか？

1. 食農科学研究科（仮称）	35 (12.7%)
2. 福島大学の他の大学院	0 (0%)
3. 他大学の大学院	57 (20.7%)

他大学の大学院への進学を考えている方は研究科名を記入して下さい。

「畜産(特に酪農)について研究できる科」

「筑波大学生物資源」

「筑波大学理工情報学術院生命地球科学研究群生物資源科学学位プログラム」

「北海道大学農学院生産フロンティアコース」

「北海道大学植物病理学研究室」

「生理生化学、生体分子化学」

「東京農業大学大学院」

「東京農工大学院」

「東北大学」

「東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻」

「食品開発、食品科学」

「宇都宮大学」

「明治大学」

「農福連携」

問6 新研究科へのご意見・ご要望がありましたら自由に入力してください。

- ・就職において農業経営学科など社会科学系の大学院に行くメリットがあるのか知りたい。
- ・入試の内容について知りたいです。
- ・食品科学コース以外の方が食農科学研究科(仮)に行く時に食品科学コースに行くことはできますか？
- ・試験科目や受験条件(?)について教えて欲しい。
- ・今配属している研究室とは異なる研究室へ移動は出来ますか？
- ・自分の所属してたコースと違う分野のコースの進学はできるか？またはどれくらい難しいか？
- ・大学院の教授と、大学教授は違いますか？
- ・具体的な試験内容を提示してほしい
- ・試験内容を明確におねがいします。
- ・福島大学食農学類だと入学しやすいなど有利はありますか
- ・英語の外部試験(toeic など)での採点はどうか

資料2 進路決定時期に関する学生アンケート（食農学類3年生対象）

食農科学研究科 3年生対象 追加学生アンケート（2021年12月）設問

食農学類大学院（食農科学研究科（仮称））に関する学生アンケート（追加質問）

3年生対象の追加質問です。

11月8日に、進路についての意向調査をしました。追加で教えて欲しいことは、現在の進路の意向について自分の中ではいつ頃決めたのかということです。

メールアドレス *

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 [設定を変更](#)

現在、卒業後の進路について考えていると思います。すでに進路について決めていますか？ *

- すでに決めている
- まだ決めていない

「すでに決めている」と答えた人にお尋ねします。進路を決めた時期は、いつ頃でしょうか？

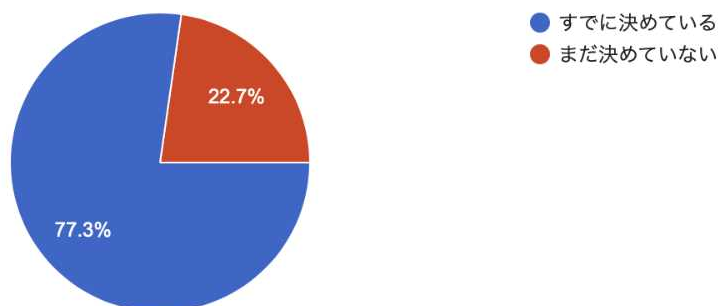
- 大学進学前
- 1年生前半
- 1年生後半
- 2年生前半
- 2年生後半
- 3年生前半
- 3年生後半

食農科学研究科 3年生対象 追加学生アンケート (2021年12月)
<集計結果>

(n=66)

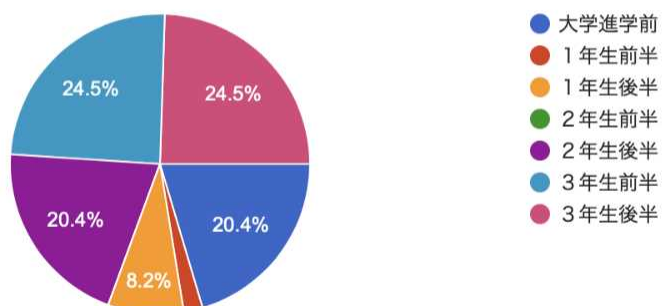
現在、卒業後の進路について考えていると思います。すでに進路について決めていますか？

66件の回答



「すでに決めている」と答えた人にお尋ねします。進路を決めた時期は、いつ頃でしょうか？

49件の回答



資料3 進路に関する学生アンケート（2回目）（食農学類1～3年生対象）

福島大学大学院「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）

設置計画案に関するアンケート

福島大学では、食農学類の完成年度に併せて「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）の設置を計画しています（別添の概要資料をご参照下さい）。

新しい大学院は「持続可能で健康的な食を人々に供給するために、農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する科学技術や社会システムについて基盤研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ高度専門職業人・研究者を養成する。」ことを理念としています。

このアンケートは新設する研究科に進学する可能性のある学生の皆さんのニーズを把握し、研究科の計画策定の参考とするために実施するものです。調査結果は研究科新設のために活用させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

なお、このアンケートで得られた情報や回答は統計的に処理し個別の情報が公表されること及び上記目的のための統計資料としてのみ利用し、目的以外には利用することはありません。

※ 回答は、別紙解答用紙にご記入下さい。

問1 あなたの学年を教えてください。

1. 1年
2. 2年
3. 3年

問2 あなたの性別を教えてください。

1. 女
2. 男
3. 回答しない

問3 2年生と3年生は所属するコース、1年は第1希望のコースを教えてください。

1. 食品科学コース
2. 農業生産学コース
3. 生産環境学コース
4. 農業経営学コース

問4 食農学類卒業後、大学院進学もしくは就職のどちらを希望しますか？以下の選択肢から選んで下さい。

1. 大学院進学
2. 就職
3. 未定

問5 「大学院進学」と回答した人のみ答えてください。以下の選択肢から進学を希望する大学院を選んでください。

1. 食農科学研究科
2. その他の研究科

問 6 他大学の研究科を進路先として考えている人は研究科名を記入してください
(複数可)。

問 7 大学院進学に際しての動機付けとなる理由を教えてください(選択は2つまで)。

1. 学部で身につけた知識・技能を更に深めたい。
2. 大学等の教育機関、企業等で教育、研究、開発に携わりたい。
3. 高度専門職業人材として専門性を活かして社会で活躍したい。
4. 福島の農林水産業、食品産業を通して復興に貢献したい。
5. その他(具体的に：)
6. 特に理由はない。

問 8 どのような制度・支援策があれば、大学院への進学につながりますか(複数回答可)。

1. 入学金や授業料等の減免制度
2. 1年程度の短期間で修了できる制度
3. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度
4. 負担感の少ない入学者選抜
5. その他()

問 9 新研究科で構想している以下の項目に関してあなたの意見を聞かせてください。
(各項目について、1つ選択)

1. ギャップイヤー制度
2. 遠隔・オンデマンド授業の充実
3. 学部のコースに対応したコース設定
4. 専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」
5. 高度化プログラム「アグロエコロジー」

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
ギャップイヤー制度	1-1	1-2	1-3	1-4
遠隔・オンデマンド授業の充実	2-1	2-2	2-3	2-4
複数指導体制	3-1	3-2	3-3	3-4
学部のコースに対応したコース設定	4-1	4-2	4-3	4-4
専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」	5-1	5-2	5-3	5-4
高度化プログラム「アグロエコロジー」	6-1	6-2	6-3	6-4

食農科学研究科の設置構想について、知りたいことやご要望があれば教えてください。

福島大学大学院「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）
 設置計画案に関するアンケート（2022年1月） <集計結果>

在学生アンケート（追加実施）

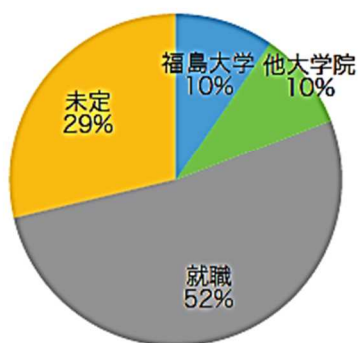
実施時期 2022年1月
 対象 学類全学生および回収率
 3年生 106人（93%）
 2年生 101人（67%）
 1年生 104人（90%）

結果及び項目 以下（1）（2）

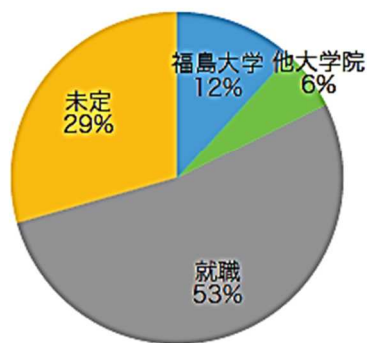
(1)まとめ

食農学類在学生アンケート（2022年1月実施）

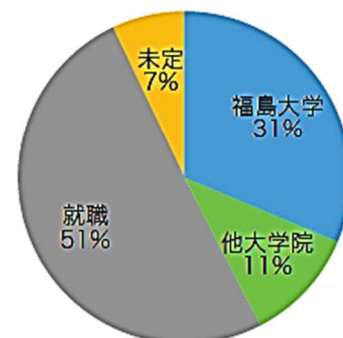
学年・コース	回答数	福島大	他大学院	就職	未定	福島大学	他大学院	就職	未定
	人数	人数	人数	人数	人数	率	率	率	率
3年生	99	31	11	50	7	0.313	0.111	0.505	0.071
食品科学コース	26	16	3	7	0				
農業生産学コース	26	7	1	13	5				
生産環境学コース	23	7	1	13	2				
農業経営学コース	24	1	6	17	0				
2年生	68	8	4	36	20	0.118	0.059	0.529	0.294
食品科学コース	23	3	3	9	8				
農業生産学コース	18	3	0	8	7				
生産環境学コース	15	1	1	10	3				
農業経営学コース	12	1	0	9	2				
1年生	94	9	9	49	27	0.096	0.096	0.521	0.287
食品科学コース	33	4	4	15	10				
農業生産学コース	27	2	3	14	8				
生産環境学コース	17	2	1	7	7				
農業経営学コース	17	1	1	13	2				



1年生



2年生



3年生

(2)データ

問1 あなたの学年を教えてください。

- 1. 1年 94人
- 2. 2年 68人
- 3. 3年 99人

問2 あなたの性別を教えてください。

- 1. 女 145人
- 2. 男 111人
- 3. 回答しない 5人

問3 2年生と3年生は所属するコース、1年は第1希望のコースを教えてください。

- 1. 食品科学コース 84人 (32.2%)
- 2. 農業生産学コース 63人 (24.1%)
- 3. 生産環境学コース 62人 (23.8%)
- 4. 農業経営学コース 52人 (19.9%)

問4 食農学類卒業後、大学院進学もしくは就職のどちらを希望しますか？以下の選択肢から選んで下さい。

- 1. 大学院進学 72人 (27.6%)
- 2. 就職 135人 (51.7%)
- 3. 未定 54人 (20.7%)

問5 「大学院進学」と回答した人のみ答えてください。以下の選択肢から進学を希望する大学院を選んでください。

- 1. 食農科学研究科 48人 (18.4%)
- 2. その他の研究科 24人 (9.2%)

問6 他大学の研究科を進路先として考えている人は研究科名を記入してください（複数可）。

東北大学（2）、東京大学、東京農工大学、京都大学
「食品化学、栄養学、天然物化学」、「大学院農学研究科」「応用植物学研究科」
「未定だが畜産系」

問7 大学院進学に際しての動機付けとなる理由を教えてください（選択は2つまで）。

- 1. 学部で身につけた知識・技能を更に深めたい。 109
- 2. 大学等の教育機関、企業等で教育、研究、開発に携わりたい。 88
- 3. 高度専門職業人材として専門性を活かして社会で活躍したい。 130
- 4. 福島の農林水産業、食品産業を通して復興に貢献したい。 41
- 5. その他（具体的に：
「親の勧め」「海外滞在期間をもうけたいのと、国家公務員になりたいため」
「この先生の前でもう少し学びを深めたいと思ったから」「学生として、社会にでる前にもう少し社会経験をたくさんしたいから」）
- 6. 特に理由はない。 2

問8 どのような制度・支援策があれば、大学院への進学につながりますか（複数回答可）。

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1. 入学金や授業料等の減免制度 | 199 |
| 2. 1年程度の短期間で修了できる制度 | 46 |
| 3. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度 | 52 |
| 4. 負担感の少ない入学者選抜 | 126 |
| 5. その他（「就職するので興味なし」） | |

問9 新研究科で構想している以下の項目に関してあなたの意見を聞かせください。

（各項目について、1つ選択）

1. ギャップイヤー制度
2. 遠隔・オンデマンド授業の充実
3. 学部のコースに対応したコース設定
4. 専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」
5. 高度化プログラム「アグロエコロジー」

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
ギャップイヤー制度	94	134	33	11
遠隔・オンデマンド授業の充実	75	140	49	10
学部のコースに対応したコース設定	141	123	5	4
専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」	67	152	49	5
高度化プログラム「アグロエコロジー」	101	138	30	5

食農科学研究科の設置構想について、知りたいことやご要望があれば教えてください。

- ・ギャップイヤーによって不利になることはないか
- ・日本でギャップイヤーが導入されている大学は少ないので、その期間どのように過ごせばいいのか、また就職で不利にならないかどうかを知りたいです。ギャップイヤーのことが不安で福大院に進学することを考えていませんでしたが、メリットがあれば福大院進学も視野に入れて考えてみようと思っています。
- ・是非設置していただきたいです！
- ・院試対策をしたいので、早めに情報を開示していただけると幸いです。
- ・正式な要項はいつ頃発表されるのか？
- ・具体的な入学試験要件が曖昧にしか連絡していただけていないので、決定した事柄に関しては、随時発信していただきたい。（英語試験のTOEIC利用等）
- ・[1]院試について（どの程度の英語が必要なのか、試験科目など）、[2]「アグロエコロジー」の具体的な内容について（まだよくつかみきれないなので、ご説明いただけたら幸いです）」
- ・入学試験の方法について、受講科目について



『ふくしま未来食・農教育プログラム』の実施体制

本教育プログラムは、福島大学が原子力災害の最前線にある地元大学として地域の復興・再生を支援するとともに、それに資する高い専門性と幅広い素養を持った人材を育成する。本学学生のみならず、農林水産業の復興・再生を志す若者、復興と再生の最前線にある農業者、農業関連機関・食品関連企業の職員、行政職員、学校教員、及び避難者といった社会人の再教育にも意識的に取り組み、多様な主体によるオール福島での食と農の復興・再生を目指す。本プログラムで形成される人的ネットワークは、受講生間の連帯を構築するだけでなく、福島大学、ひいては全国の研究・教育機関が被災地との強力なパイプを確保し、最新の研究成果や技術を迅速に地域に還元してゆく等、復興・再生の“インキュベーター”としての存在感も発揮する。

福島大学の全学 およびセンター

本プログラム専任教員（新採用）

復興支援関連の研究者・事務員

・経済経営学類

- ・共生システム理工学類
- ・行政政策学類
- ・人間発達文化学類
- ・うつくしまふくしま未来支援センター

【実施主体】

【地方公共団体・地域協議会】

【関連分野の企業／業界団体】

【協同組合／NPOなど】

【国内外の大学・研究機関】

- 福島県農業総合センター
- 連携大学・連携研究機関
- 地元農業高校・農業短期大学校
- ベラルーシ・ウクライナの各機関

【多様な連携主体】

【食料流通・ビジネスコース】

【食料流通に関わる科目例】

- ◆放射能と地域経済（農業・食糧経済学）
- ◆フードシステム論
- ・産業創造論（企業論/社会起業論）
- ・街づくり・観光論
- ・マーケティング・流通論

【関連分野の授業科目例】

- ◆地域計画論
- ◆環境社会学・公営論
- ・地方財政システム論
- ・放射能と健康・保健
- ・食品と食糧の科学
- ・エネルギー論
- ・市民社会論（協同組合/ボランティア）

【農業生産に関わる授業科目例】

- ◆食物生産と放射能（土壌学/栽培学etc）
- ・陸域環境と放射能（森林科学/造園学etc）
- ・水圏環境と放射能（海洋科学/陸水学etc）
- ◆農業経営実習

【農業生産・経営コース】

下線は専任教員が担当。◆は新設科目。
その他は連携部局の提供科目の読み替え。

【社会人：約20名】即戦力として
地域の食と農の再生を担うリーダー



- ・農業者／農業関連機関
- ・食品関連企業／避難者
- ・行政職員／学校教員

【若者：約10名】産業復興の担い手



- ・農業高校卒業生
- ・農業後継者、就農志望者
- ・食と農に関心のある若者
- ・避難者

【本学学生：約10名】多様な視野を
持って長期的に復興に関わる人材



- ・農業関連機関の就職志望者
- ・食品関連企業の就職志望者
- ・行政職員・教員志望者

インキュベーター
機能の実現

相互学習 啓発／復興の仲間 同志づくり

現場のリアリティ還元／大学の地域支援ネットワークの構築

資料5 企業・団体への聞き取り調査

食農科学研究科に対する地域からの意見

(1) J Aグループ福島

これまでJ Aは総合職が中心であったが、合併が進み規模が大きくなる中、専門職の登用を検討している。農業経営の高度化に関わる技術・知識を習得した人材を養成してほしい。営農指導員のみならず、地域農業振興計画策定など被災地農業のコンサルティング業務に関わる人材を必要としている。過去に福島大学大学院経済学研究科「ふくしま未来食・農教育プログラム」に単協3人、連合会2人送り出している（職員研修：学費組織負担）。農学修士卒の人材の採用を期待している。食農科学研究科には、普及員制度、営農指導員制度と連携したエクステンションセンター機能を期待している。

(2) 福島県土地改良事業団体連合会

農業土木、水利、農村計画に関する専門人材の確保に苦労している。震災後採用が困難となっている。地元で専門人材の養成機関がなかったが食農学類設置後の採用に期待している。特に土地連は59名の職員のうち技術職が35人。そのうち30人が5年以内に定年退職予定となっており、専門職の確保が喫緊の課題である。技術士補、測量士補の資格を取得できる大学院を望む。採用意欲は高く期待している。また、学士卒の技術系職員を社会人院生として派遣する仕組みも検討したい。現在35名の技術系職員のうち修士は3名となっている。過去、経済学研究科「ふくしま未来食・農教育プログラム」に4名の職員を入学させ、修士の学位を取得させた実績がある（放射能汚染対策）。

(3) 一般社団法人 福島県農業会議

農業委員会、農地利用最適化推進委員の運用に関わり、農地制度や地域農業を理解し、経営の高度化、高度な土地利用計画に寄与できる人材を養成してほしい。東北大学農学部と宮城県、山形大学農学部と山形県など地元で農学系の人材養成、研究開発機関があることで高度な土地利用を可能にしてきたと考えている。逆に福島県農業の課題はこの点にあり、食農科学研究科設置に期待している。世界で唯一の研究部門としてアグロエコロジーや発酵醸造部門に期待している。

(4) 郡山市

本市と福島大学は、平成 25 年度（2013 年度）に連携協定を締結し、①食と農復興リーダー育成事業（経済学研究科地域産業復興プログラムへの院生派遣、延べ 12 名）、②市民公開授業の開催を 2 本柱として、本市における震災・原子力災害からの食と農の地域産業復興に資するための事業を実施してきた。また平成 31 年（2019 年）4 月に設置された食農学類に関わっては、食農実践演習（実践教育プログラム）のフィールドを提供している。

この度の食農科学研究科の設置は、本市と福島大学がこれまで築いてきた連携のかたちを一層発展させるものとして大いに期待する。県内唯一の農学系大学院として、農業と食に関わる専門的スキルを習得し、地域農業と食品産業をけん引するリーダー人材を育成・輩出していただきたい。とくに本市が力を入れるアグリテック（スマート農業技術）の先端的知見・スキルを有する人材の育成に期待したい。

(5) 福島県農業総合センター

①大学院設置への期待

福島大学の農学系学部設置が、教授陣からの地域農業や農業行政への助言や地域での研究の実施、卒業生の地元への就職等によって地域農業や地域社会の活性化につながると期待されている。

今後、大学院が開設されることによって、県内に意欲的な人材が残り、他県からの優秀な人材が集まること、高い学術的専門性や課題解決力に優れた人材の輩出されることが期待される。むしろ、人材の流出を防ぐには大学院の設置が急務とも思われる。また、現地での試験など学部から大学院まで継続して実施されることにより現地課題の解決も期待される。本県は東日本大震災や原子力災害により農業や食品産業に大きな打撃を受けており、その再興には、放射性物質対策や醸造技術の向上、あるいは温暖化や気象変動に伴う栽培技術の構築など、設置される大学院での研究に課題解決を期待する部分も多い。

また、専門性の高い研究者の育成により当センターとの共同研究の内容も高度化し幅が広がると思われる。貴学の環境放射能研究所や発酵醸造研究所と連携するなど全学的に学際的な人材育成を期待する。

②人材養成像、採用への期待

地元に大学院が設置されることによってより高い学術的専門性や課題解決力に優れた人材の輩出が期待される。また、人材が県内に残るほか、全国から優秀な人材が集まる可能性が高まり、そうした中から県への応募者も多くなり、採用者の農業技術や試験研究部門での活躍が期待される。大学院修了者は、学部での2年間の卒業研究にとどまらず継続して県内の現地とつながりながら研究することで、福島県の現状を理解し、愛着を持って業務を担う即戦力となる人材が多くなると期待される。

また、公設研究機関において、外部資金を活用した国研究機関や大学等との共同研究が多くなっており、博士号を有し学会活動等に経験ある人材の確保が必要となっており、外部資金への応募が促進できると考える。

③社会人院生の可能性

現在、他大学大学院に在籍している者もあり、地元で大学院が設置されることで、修士課程、博士課程ともに修学を希望する者は毎年一定数でとみられる。実際に研究員の中から大学院に修学させたいと考えている部所もある。公設研究機関として研究員の資質向上のため、早期の地元大学院設置を望むものである。本県では現在は学位取得に対する経済的な支援制度はないが、休暇取得への配慮や担当業務のバックアップなどで支援することになると考える。なお、大学院には集中講義や土日、夜間の講義など社会人が修学しやすいカリキュラム設定を期待している。

(6) 農研機構 果樹茶業研究部門 (旧：農研機構 果樹研究所)

食農科学研究科修了生の採用に関するニーズとして何度か、大学院(修士・博士)卒でいい人がいれば紹介して欲しいと打診があった(毎回、同一人物ではないが定期的に打診あり)。

(7) 独立行政法人 家畜改良センター

家畜改良センターから、大学院修了生の受験させて欲しいとの要望が複数回あった。インターンシップの受け入れ実績あり。

(8) 農業総合センター 畜産研究所

福島県農業総合センター畜産研究所から、大学院修了生に受験させて欲しいとの要望が複数回あり、実習で同研究所を毎年見学に行っているが、学生に受

験を促す案内が毎回行われている。また、福島県農業総合センター畜産研究所副所長に社会人入学のニーズについてヒヤリングしたところ、多分、希望者はいるだろうとの回答があった。

(9) 福島県農林水産部畜産課

福島県農林水産部畜産課課長から、複数回、大学院修了生の受験を促す要望が来ている。

(10) その他、食農科学研究科への社会人入学のニーズの聞き取り

・食品会社企業（果実の加工）従業員・社長などから、社会人コースに是非入学したいとの話しがあった。また、農業経済、農業生産、食品加工などへの興味が示された。

・福島県庁農業関係部署への聞き取りを行い、入学を検討したいとの言及があった。

・福島市議との懇談会の中で、「市職員を定期的に送り込んでいただくような仕組みづくりをお願いした（これまで、郡山市や葛尾村の自治体職員が福島大学大学院経済学研究科「ふくしま未来 食・農教育プログラム」に入学した実績が多数あり）。

・サカタのタネにヒヤリングしたところ、修士卒は研究農場での育種、種子処理、病理、農業資材関係の研究業務で採用されているとのこと。新卒採用人数は毎年30名ほどで、うち2、3割が修士卒とのこと。どこの大学でも採用されているとのこと。サカタのタネは種苗メーカー最大手2社のうちの1社（本社横浜）。他にも種苗会社は育種に携わる修士卒を欲しがっているとのこと。

・共同研究先の株式会社ニチレイフレッシュの研究員が、本学で農業生産学コースおよび食品科学コースの大学院志望学生に個人的に会社概要を説明した。

資料6 研究科設置計画案に関するアンケート

(福島大学食農学類産官学連携会議会員事業所対象)

**福島大学大学院「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）
設置計画案に関するアンケート**

福島大学では、食農学類の完成年度に併せて「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）の設置を計画しています。福島大学食農学類は地元のみなさまからのご要望と厚いご支援をいただき、開設することができました。

新しい研究科は「持続可能で健康的な食を人々に供給するために、農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する科学技術や社会システムについて基盤研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ高度専門職業人・研究者を養成する。」ことを理念としています。

新研究科は、修士課程の設置により高度専門職業人材の養成を強力に進めるものであり、地元のみなさまのニーズを反映するとともに、地域の発展を教育と研究でリードする存在でありたいと考えております。

このアンケートは「福島大学食農学類産官学連携会議」の会員のみなさまに、高度専門職業人材としての採用の可能性だけでなく、社会人リカレント教育についてのお考えについてもお尋ねするものです。

別添の資料をお読みいただき、Google フォームのアンケートにお答え願います。

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、企業名・団体名が特定されることはありません。

【Google フォーム】<https://forms.gle/GoERw8K1aPsAT54V7>



回答期限についてのお願い

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、2月7日までに、ご回答くださいますようお願いいたします。Google フォームがご利用になれない場合は、食農学類あてのFAX(024-503-4990)でも結構です。

問1 貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。なお、「1.」から「9.」に該当する業種がない場合は、「10.」を選択の上、問2において、該当する業種を選択してください。

1. 農業、林業、漁業
2. 鉱業、採石業、砂利採取業
3. 建設業
4. 製造業
5. 電気・ガス・熱供給・水道業
6. 情報通信業
7. 運輸業、郵便業
8. 卸売業、小売業
9. 金融業、保険業
10. その他（問2へ）

問2 問1で「10.」と回答した方にお伺いします。貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 不動産業、物品賃貸業
2. 学術研究、専門・技術サービス業
3. 宿泊業、飲食サービス業
4. 生活関連サービス業、娯楽業
5. 教育、学習支援業
6. 医療、福祉
7. 複合サービス事業
8. サービス業（他に分類されないもの）
9. 公務（他に分類されるものを除く）
10. その他

問3 新設の食農科学研究科を修了した学生の採用意向についてお聞かせください。

1. 積極的に採用したい
2. 採用したい
3. 採用する可能性はある
4. 採用する予定はない
5. 分からない

問4 新設の食農科学研究科では、積極的に社会人学生を受け入れたいと検討しています。貴社・貴団体等の社員を社会人学生として入学させることについて、お考えに近い番号を1つ選んでください。

1. 社会人学生として社員を入学させたい
2. 当人が希望し、条件があれば社員の社会人入学をサポートする可能性がある
3. 当人が希望すれば入学を認めるが、事業主としてはサポートしない
4. 社会人学生として社員を入学させる可能性はない
5. その他

問5 貴社・貴団体等の社員が社会人学生として入学する場合、どのような制度・支援策があるとよいですか。当てはまる番号を全て選んでください（複数回答可）。

1. 入学金や授業料等の減免制度
2. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度

3. 週末・夜間など、社会人に適した開講曜日・時間
4. 社会人特別枠など負担感の少ない入学者選抜
5. 遠隔授業など職場・自宅から授業に参加できる仕組み
6. その他

問6 新研究科で構想している以下の項目に関してあなたの意見を聞かせてください。

(各項目について、1つ選択)

1. ギャップイヤー制度
2. 遠隔・オンデマンド授業の充実
3. 学部のコースに対応したコース設定
4. 専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」
5. 高度化プログラム「アグロエコロジー」

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
ギャップイヤー制度	1-1	1-2	1-3	1-4
遠隔・オンデマンド授業の充実	2-1	2-2	2-3	2-4
複数指導体制	3-1	3-2	3-3	3-4
学部のコースに対応したコース設定	4-1	4-2	4-3	4-4
専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」	5-1	5-2	5-3	5-4
高度化プログラム「アグロエコロジー」	6-1	6-2	6-3	6-4

食農科学研究科の設置構想について、ご意見やご要望があればご記入ください。

(別添の資料)

農と食の課題先進地で学ぶ

福島大学食農科学研究科修士課程 (案) 2021年12月15日 **設置構想中 未定稿**

農と食をめぐる大変革

「自然資本」に基づく持続可能性
データ駆動型農業イノベーション
幅広く健康をとらえるOne Health
高齢化、人口減少

福島が先進となる課題

東日本大震災、原子力災害
気候変動、生物多様性
健康寿命
農林水産業の担い手不足

新研究科で解決

自然と調和した生活
食料の安定供給
健康で豊かな食
持続可能な地域社会

定員20名：4つのコースと1つの専門高度化プログラムで農と食に関わる高度専門職業人を養成

生産環境科学

- ・生態系サービスの活用による高いレジリエンス
- ・「つながり」の視点で森林と農地の利用を再生

農業生産科学

- ・データに基づく栽培の革新
- ・災害多発時代の頑健な農業

食品科学

- ・農場-食卓-健康軸の科学
- ・伝統技術と先端計測・分析化学

農業経営科学

- ・データサイエンスとフィールドワーク
- ・生産から消費までをつなぐ対話と議論

持続可能で健康的な食を人々に供給するために、農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する科学技術や社会システムについて基盤研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ高度専門職業人・研究者を養成する。

秋入学やギャップイヤーにも対応。遠隔授業で社会人にも学びやすく。

	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
4月入学	修士1年		修士2年			
学部からの進学	座学 実験計画	修論調査	座学 データ解析	修論発表	就職	
社会人秋入学	修士1年		修士2年			
農業者も含む 早期修了者にも対応	(社会人)	座学 実験計画	修論調査	座学 データ解析	修論発表	復職
ギャップイヤー進学	修士1年		修士2年			
(内部進学特別選抜)	ギャップ イヤー	座学 実験計画	修論調査	座学、インタ ーシップ	修論発表	就職、インター ンシップ

2

カリキュラムの特徴

設置構想中 未定稿

ver. 211215

食農学類 (学部)

社会人・他大学

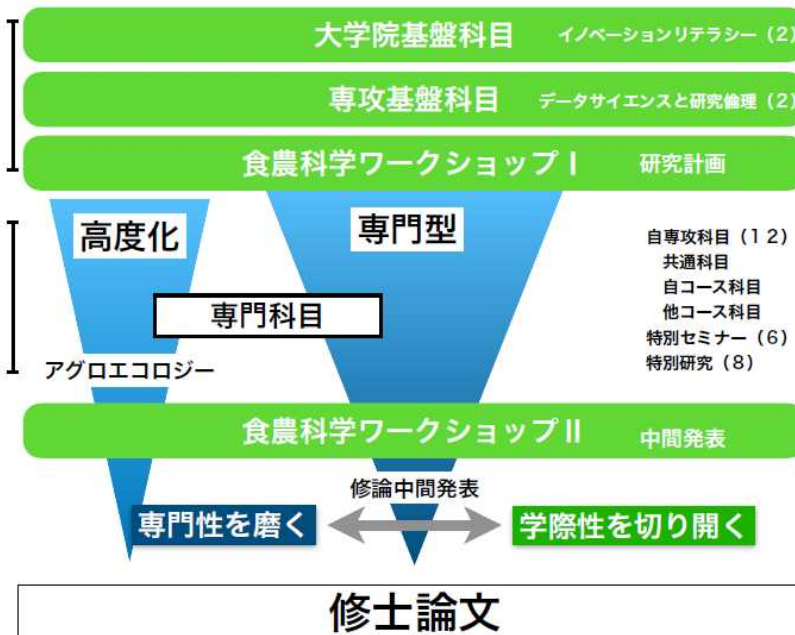
社会人リカレントに対応 (遠隔、オンデマンド、秋入学など)

食農科学研究科 (定員20名)

社会の激動に対応し、問題を俯瞰的に捉えるための科目

先端科目群で幅広い分野の最先端の専門研究を学びつつ、自らの専門分野を究める

生産環境科学
農業生産科学
食品科学
農業経営科学



複数指導体制
主指導
副指導2名

社会人リカレントにも対応した 多様な入学機会と教育体制

ver. 211215

設置構想中 未定稿

	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
4月入学	修士1年		修士2年			
学部からの進学	座学 実験計画	履修モデル+複数指導体制		修論発表	就職	
社会人秋入学		修士1年		修士2年		
農業者も含む 早期修了者にも対応	(社会人)	座学 実験計画	修論調査	座学 データ解析	修論発表	復職
ギャップ イヤー進学	オンデマンド+複数指導体制により社会人院生に対応		修士1年	農業者や経営者院生が現場で調査	修士2年	
(内部進学特別選抜)	ギャップ イヤー	座学 実験計画	修論調査	座学 インターン シップ	修論発表	就職 インターンシ ップ
	海外留学 インターンシップ など			食農地域 実践研究		

4

特色のある科目

設置構想中 未定稿

研究科共通科目「イノベーションリテラシー」

専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」

共通科目

「先端食品科学」「先端農業生産科学」「先端生産環境科学」「先端農業経営科学」

「復興知と農業・食料」

「アグロエコロジー」(設置されれば日本で初)

「食農科学ワークショップⅠ、Ⅱ」

「食農地域実践研究」(インターンシップ)

特色のある取り組み

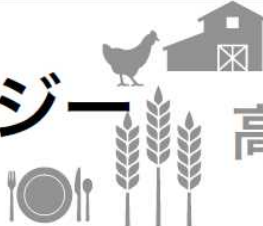
ギャップイヤー：留学やインターンシップのチャンスを確保

秋入学：社会人リカレント、留学生、早期修了進学に対応

授業方法の工夫：遠隔、オンデマンド対応で学べる時間を柔軟に確保

複数指導体制：主指導に加え2名の副指導教員による手厚い指導

アグロエコロジー



食農科学研究科 高度化プログラム

設置構想中 未定稿 ver. 211215

有機農業面積25%目標（農林水産省「みどりの食料システム戦略」）の達成を担う中核人材の育成

- ・「アグロエコロジー」の世界的な発展の歴史を踏まえ、日本に適した環境保全型農業として位置づける。
- ・現代の農業を生態学の視点から再検討し、生態系の機能を維持しつつ生態系サービスを活用することで持続可能で環境負荷を最低限にする生産システムを構築する。
- ・農業者から消費者まで公正な分配と対等の関係性のもとに農業生産を一体となって維持するしくみを認証制度などを活用して構築する方法について解説する。

近代農法の問題点：環境汚染と人の健康、土壌劣化、食料主権と農民の権利

気候変動と一次生産への影響

生物多様性と農業：なぜ生物多様性の保全が必要か？生物多様性と生態系機能、生物多様性の農業への活用

保全農法の原理：不耕起、省耕起、土壌被覆、農作物の多様化

日本農業への適用：日本の自然農の思想と技術、保全的水田農業の技術開発、不耕起・草生栽培

環境負荷と農業のあり方

社会システムの転換と農業

(福島大学食農学類産官学連携会議会員事業所対象)

**福島大学大学院「食農科学研究科（仮称）」（修士課程）
設置計画案に関するアンケート <集計結果>**

(n=31)

問1 貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。なお、「1.」から「9.」に該当する業種がない場合は、「10.」を選択の上、問2において、該当する業種を選択してください。

1. 農業、林業、漁業	7 (22.6%)
2. 鉱業、採石業、砂利採取業	0
3. 建設業	0
4. 製造業	6 (19.4%)
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	0
6. 情報通信業	1 (3.2%)
7. 運輸業、郵便業	0
8. 卸売業、小売業	4 (12.9%)
9. 金融業、保険業	1 (3.2%)
10. その他（問2へ）	12 (38.7%)

問2 問1で「10.」と回答した方にお伺いします。貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 不動産業、物品賃貸業	0
2. 学術研究、専門・技術サービス業	0
3. 宿泊業、飲食サービス業	0
4. 生活関連サービス業、娯楽業	0
5. 教育、学習支援業	0
6. 医療、福祉	0
7. 複合サービス事業	0
8. サービス業（他に分類されないもの）	3 (9.7%)
9. 公務（他に分類されるものを除く）	9 (29.0%)
10. その他	

問3 新設の食農科学研究科を修了した学生の採用意向についてお聞かせください。

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 積極的に採用したい | 7 (22.6%) |
| 2. 採用したい | 4 (12.9%) |
| 3. 採用する可能性はある | 12 (38.7%) |
| 4. 採用する予定はない | 0 (0%) |
| 5. 分からない | 8 (25.8%) |

問4 新設の食農科学研究科では、積極的に社会人学生を受け入れたいと検討しています。貴社・貴団体等の社員を社会人学生として入学させることについて、お考えに近い番号を1つ選んでください。

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 1. 社会人学生として社員を入学させたい | 2 (6.4%) |
| 2. 当人が希望し、条件があれば社員の社会人入学をサポートする可能性がある | 16 (51.6%) |
| 3. 当人が希望すれば入学を認めるが、事業主としてはサポートしない | 6 (19.4%) |
| 4. 社会人学生として社員を入学させる可能性はない | 3 (9.7%) |
| 5. その他 | 4 (12.9%) |

問5 貴社・貴団体等の社員が社会人学生として入学する場合、どのような制度・支援策があるとよいですか。当てはまる番号を全て選んでください（複数回答可）。

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1. 入学金や授業料等の減免制度 | 13 |
| 2. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度 | 9 |
| 3. 週末・夜間など、社会人に適した開講曜日・時間 | 14 |
| 4. 社会人特別枠など負担感の少ない入学者選抜 | 19 |
| 5. 遠隔授業など職場・自宅から授業に参加できる仕組み | 15 |
| 6. その他 | 0 |

問6 新研究科で構想している以下の項目に関してあなたの意見を聞かせください。
(各項目について、1つ選択)

1. ギャップイヤー制度
2. 遠隔・オンデマンド授業の充実
3. 学部のコースに対応したコース設定

4. 専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」

5. 専門高度化プログラム「アグロエコロジー」

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
ギャップイヤー制度	8	20	2	1
遠隔・オンデマンド授業の充実	13	14	4	0
複数指導体制	11	17	3	0
学部のコースに対応したコース設定	10	18	3	0
専攻共通科目「データサイエンスと研究倫理」	10	16	4	1
高度化プログラム「アグロエコロジー」	13	17	0	1

食農科学研究科の設置構想について、ご意見やご要望があればご記入ください。

- ・単純に経済的合理性だけでは説明がつかない農業・食料の特性や食料安全保障上、多面的機能からも理解を深めていただきたい。
- ・農業の担い手が減少する中、科学の側面から農業に従事しやすい環境を構築すること
- ・地元福島に将来の一次産業を担う研究拠点が存在していくことは非常に頼もしく思います。生産活動にもしっかりと小売も参加して川上から川下までの共有が不可欠と思います。頑張ってください。
- ・農業の現場を知る、研究者の育成をお願いしたい。
- ・地方において農業は地域経済を支える重要な産業基盤であり、今後もそうあって欲しいと考えています。そのためには、農業自体の活性化や次世代への継承を担う人材育成が重要です。福島大学に食農学類が設置される前、福島県の農業は原発事故による放射能や風評被害の対応に明け暮れ疲弊感や閉塞感が漂っていましたが、食農学類の新設により食と農に関する明るい話題が多く発信されるようになりました。特に、学生らが地域コミュニティと積極的に関わる姿は清々しく、新たな息吹を吹き込んでもらっていると感じています。食農科学研究科の設置構想には大いに期待しております。
- ・修士課程の創設により農、食の分野におけるエリートを輩出するシステムが構築されると思います。このようなエリート人材を雇用できるセクションは大学、公的研究機関、大企業と限られるかと思えます。アグロエコロジーなど環境面から持続可能性や人と自然の根本的なあり方について考察し、その分野から施策や企業戦略を構築できる人間は必要不可欠です。しかしながら、現実の雇用や企業利益への短期でのフィードバックを考えると地域企業における経営陣の理解がどの程度進むかは未知数です。エリート人材

について福島県内で活躍してもらうためには福島県庁、県内大企業とリボルビングシステムを構築し、本人の研究、キャリアアップ、生活基盤の安定に繋がりつつ、行政施策、企業経営への貢献を果たす仕組みの構築が必要かと思います。また、県という枠組みを超え、世界に人材を輩出するという気概も必要かと思います。

- ・あまり制限を設けず可能な範囲で設置して欲しい
- ・リカレント教育は学校側のみならず事業者側の理解が不可欠となるが、農業者をはじめ社会人が学びやすい環境となるよう期待したい。
- ・地元の食材を通じて、食のイベント開催など

「食農科学研究科において取組をしていただきたいこと」

- ・テーマ：原発問題

① 福島の食に対する現状

1. 福島県における原発事故に伴う放射能汚染状態の時系列による推移
2. 米・野菜・畜肉・魚介類の放射能汚染に実態と現状で確認できる県産食品に対する風評の実態
3. 県産農産物の市場価格の推移（2008～2021）
4. 福島県民による県産農産物の消費割合調査
5. 県産農産物に対する規制の状態（摂食・販売・輸出の制限等）

② 今後の対策

1. スローガンにとどまらない「安心・安全」の中身に対する肉付け
2. 福島県民が地場産の食品を贈答する際に言い添えるキャッチフレーズの考案
3. 県産食品の消費拡大を打ち出すキャンペーン企画の組立
4. 農業生産者等が障壁なく参加できる輸出事業の組立
5. 事実に基づかない県産食品に対する風評を払いのけるためのツールコンテンツの制作（ビデオ・アニメーション・創作落語・読み聞かせ絵本など）
6. 放射能汚染水の海洋投棄に代わりうる処理処分方法を考案・確立し、全国民に周知を図り、その実行を国へ要望していく。

資料7 大学院再編に関するアンケート（企業・団体向け）

福島大学大学院（修士課程、博士前期課程、専門職学位課程）

再編に関するアンケート調査 調査票

令和3年11月

福島大学大学院再編に関するアンケート（ご協力をお願い）

国立大学法人福島大学

（アンケートの趣旨）

日頃より、福島大学の教育研究にご支援いただき、また、学生の就職にご配慮いただき、誠にありがとうございます。

福島大学では、震災・原発事故から10年となる令和2年10月に「福島大学ミッション2030」を策定し、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」を基本理念として決めました。

そして、21世紀的課題の先進地域となった福島県において、10年後、20年後を見据えた、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」に取り組む教育研究機関として再構築するため、**令和5年度の大学院再編**を目指して検討を進めてきたところです。

つきましては、より良い大学院に向けた検討の参考とするため、貴社・貴団体等のご意見を伺いたく、**アンケートにご協力**くださいますようお願い申し上げます。

（アンケートの取扱い）

アンケートは調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、**企業名・団体名が特定されることはありません。**

（アンケートをご回答いただくに当たって）

- ・同封の大学院再編構想資料をご覧いただいた上で回答をお願いいたします。なお、大学院の再編構想は、検討段階の内容であり、今後変更となる場合がありますのでご了承ください。
- ・回答は、可能であれば人材育成・採用に関わっている方をお願いいたします。
- ・回答は、該当する番号を別紙マークシート用紙に記入してください。また、必要に応じて記述欄への記入もお願いいたします。
- ・なお、以下に示す URL 又は QR コードにアクセスすることで、Web 上で回答することも可能です（その場合は、マークシートへの記入と返送は不要です）。

【Google フォーム】<https://forms.gle/RnUmJuBqoDg5wa2Q6>



（回答期限についてのお願い）

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、**11月19日まで**に、下記担当宛に同封の返信用封筒又は Web にてご回答くださいますようお願いいたします。

【担当】福島大学総務課大学院改革室 担当：熊谷、齋藤
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL：024-503-1879 FAX：024-548-3180
E-Mail：daigakuin@adb.fukushima-u.ac.jp

問1 貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。なお、「1.」から「9.」に該当する業種がない場合は、「10.」を選択の上、問2において、該当する業種を選択してください。

1. 農業、林業、漁業
2. 鉱業、採石業、砂利採取業
3. 建設業
4. 製造業
5. 電気・ガス・熱供給・水道業
6. 情報通信業
7. 運輸業、郵便業
8. 卸売業、小売業
9. 金融業、保険業
10. その他（問2へ）

問2 問1で「10.」と回答した方にお伺いします。貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 不動産業、物品賃貸業
2. 学術研究、専門・技術サービス業
3. 宿泊業、飲食サービス業
4. 生活関連サービス業、娯楽業
5. 教育、学習支援業
6. 医療、福祉
7. 複合サービス事業
8. サービス業（他に分類されないもの）
9. 公務（他に分類されるものを除く）
10. その他

問3 貴社・貴団体等の従業員数（正社員数）について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 50名未満
2. 50名～100名未満
3. 100名～500名未満
4. 500名～1,000名未満
5. 1,000名～5,000名未満
6. 5,000名以上

問4 新しくなる福島大学の大学院についてお伺いします。同封の資料をお読みいただき、関心を持った専攻の番号を全て選んでください（複数回答可）。

- | | |
|------------------|----------------|
| （地域デザイン科学研究科） | 1. 文化共創専攻 |
| | 2. 地域政策科学専攻 |
| | 3. 経済経営専攻 |
| （教職実践研究科（教職大学院）） | 4. 教職高度化専攻 |
| （共生システム理工学研究科） | 5. 共生システム理工学専攻 |
| | 6. 環境放射能学専攻 |
| （食農科学研究科） | 7. 食農科学専攻 |
| （いずれでもない場合） | 8. 該当なし |

問5 貴社・貴団体等の採用計画では、どのような出身学歴（最終学歴）の方を採用することをお考えですか。次の中から「採用対象となる」と思われる番号を全て選んでください（複数回答可）。

1. 大学院
2. 大学
3. 短期大学
4. 専門学校
5. その他

問6 貴社・貴団体等では福島大学の大学院修了生を採用していますか。該当する番号を1つ選んでください。

1. 採用している
2. 採用したことはない

問7 新しくなる福島大学大学院を修了した学生の採用意向についてお聞かせください。

1. 積極的に採用したい (問8へ)
2. 採用したい (問8へ)
3. 採用する可能性はある (問8へ)
4. 採用する予定はない
5. 分からない

問8 問7で「1.」「2.」「3.」と回答した方にお伺いします。どの専攻の学生を採用したい、あるいは採用する可能性がありますか (複数回答可)。

- | | |
|-------------------|----------------|
| (地域デザイン科学研究科) | 1. 文化共創専攻 |
| | 2. 地域政策科学専攻 |
| | 3. 経済経営専攻 |
| (教職実践研究科 (教職大学院)) | 4. 教職高度化専攻 |
| (共生システム理工学研究科) | 5. 共生システム理工学専攻 |
| | 6. 環境放射能学専攻 |
| (食農科学研究科) | 7. 食農科学専攻 |

問9 新しくなる福島大学大学院では、積極的に社会人学生を受け入れたいと検討しています。貴社・貴団体等の社員を社会人学生として入学させることについて、お考えに近い番号を1つ選んでください。

1. 社会人学生として社員を入学させたい
2. 当人が希望し、条件があれば社員の社会人入学をサポートする可能性がある
3. 当人が希望すれば入学を認めるが、事業主としてはサポートしない
4. 社会人学生として社員を入学させる可能性はない
5. その他

問10 貴社・貴団体等の社員が社会人学生として入学する場合、どのような制度・支援策があるとよいですか。当てはまる番号を全て選んでください (複数回答可)。

1. 入学金や授業料等の減免制度
2. 働きながら3年程度の長期間で修了できる制度
3. 週末・夜間など、社会人に適した開講曜日・時間
4. 社会人特別枠など負担感の少ない入学者選抜
5. 遠隔授業など職場・自宅から授業に参加できる仕組み
6. その他

問 11 大学院再編構想へのご意見・ご要望がありましたら自由に記入してください。

--

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

福島大学大学院（修士課程、博士前期課程、専門職学位課程）再編に関する アンケート調査結果（概要）（企業・団体等向け）

1. 調査実施概要

（1）調査目的

令和5年4月に再編予定の福島大学の大学院に対する社会的ニーズ（派遣、採用）を把握することを目的とする。

（2）調査対象

本学学生の採用実績等を有する県内外の企業・団体等「373事業所」を対象とした。

（3）調査方法

福島大学大学院の再編（改組及び新設）の内容を説明する資料及び調査票を上記調査対象に郵送で送付し、マークシート又はGoogleフォームにより回答を回収した。

（4）調査時期

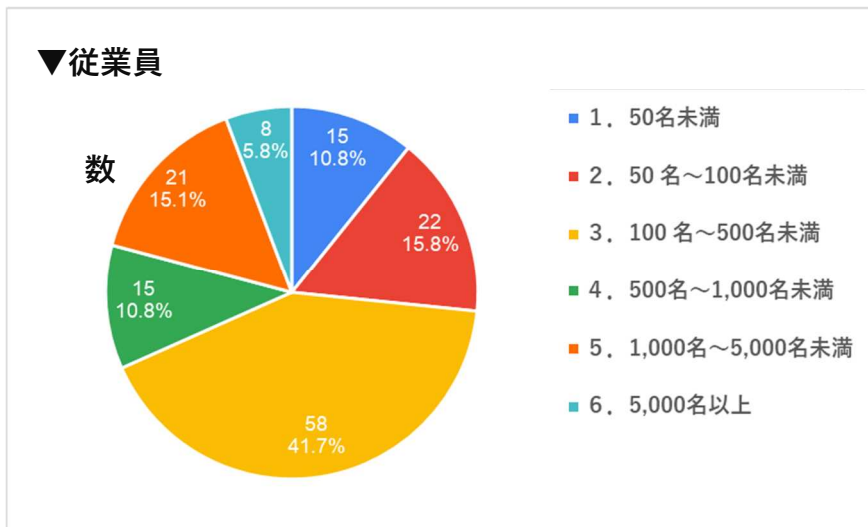
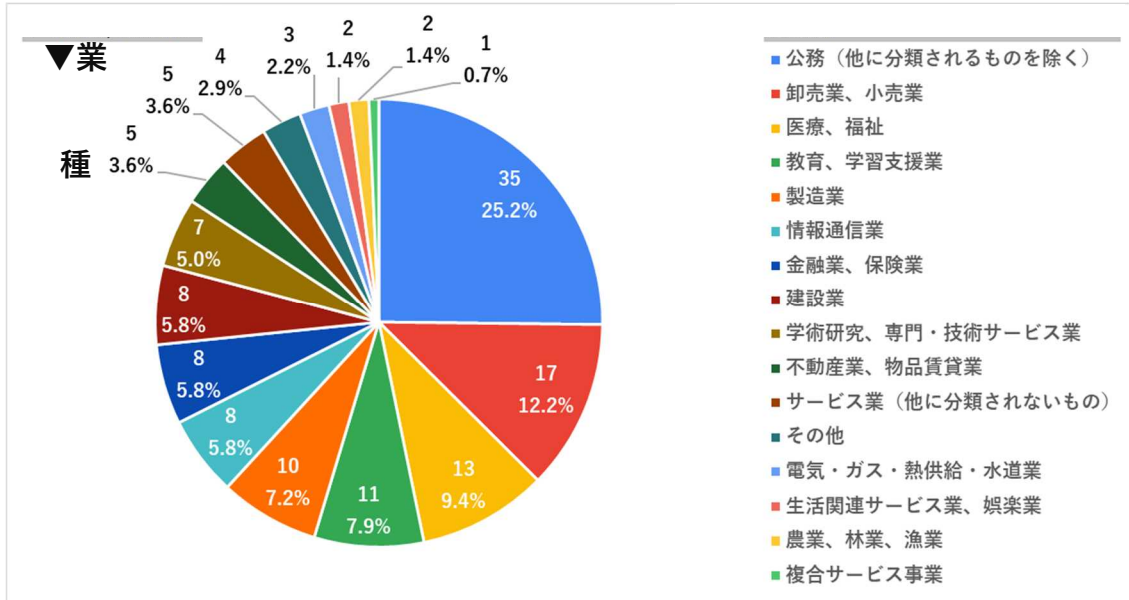
令和3年11月8日（月）～11月19日（金）

（5）回答数（回答率）

139事業所（約37.3%）※締切後の到着分を含む。

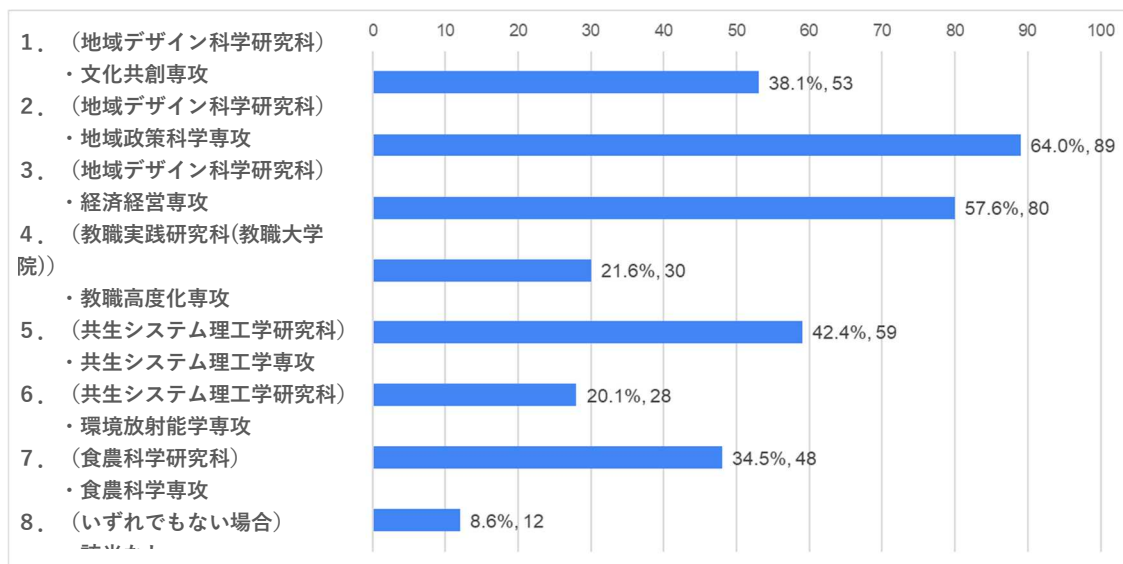
2. 調査結果

(1) 回答事業所の属性（業種、従業員数）について



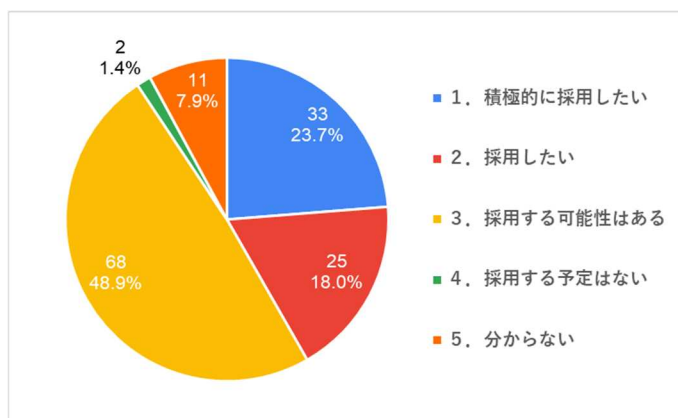
(2) 新構想大学院（各専攻）への関心について

▼問4 新しくなる福島大学の大学院についてお伺いします。同封の資料をお読みいただき、関心を持った専攻の番号を全て選んでください（複数回答可）。

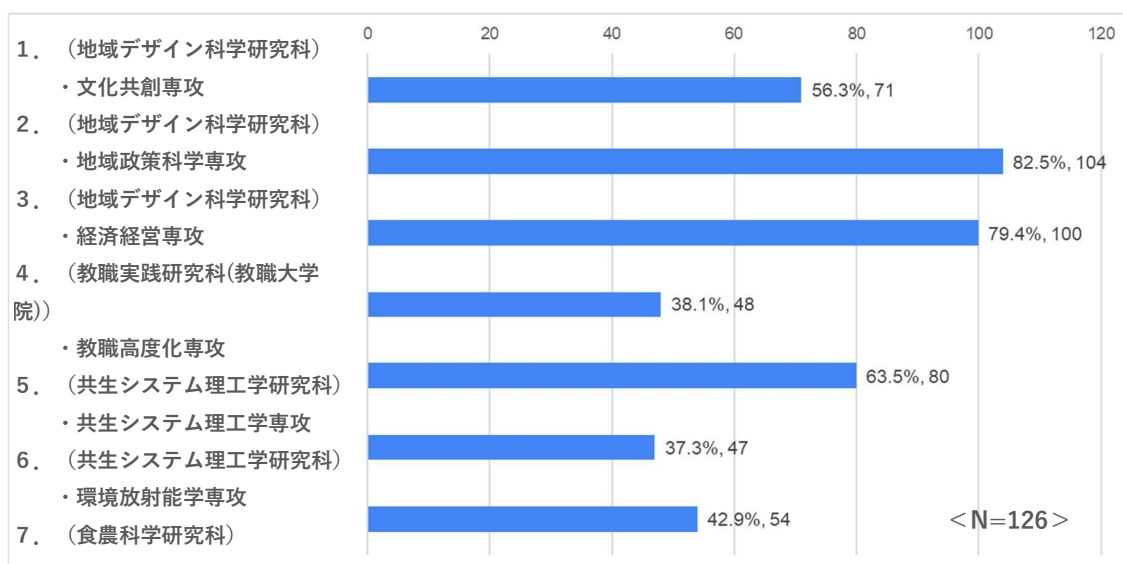


(3) 新構想大学院修了生の採用について

▼問7 新しくなる福島大学大学院を修了した学生の採用意向についてお聞かせください。



▼問8 問7で「1.」「2.」「3.」と回答した方にお伺いします。どの専攻の学生を採用したい、あるいは採用する可能性がありますか（複数回答可）。



(4) 新構想大学院への意見・要望について (自由記述)

▼問11 大学院再編構想へのご意見・ご要望がありましたら自由に記入してください。

[23 事業所より寄せられた意見・要望をカテゴリ別に整理]

※食農科学研究科に関連しない意見を除く。

(大学院全体、組織に関するご意見)

- ・時代にあった研究機関になりますように
- ・福島県の地域課題について専門的に研究し、即戦力として企業に貢献できる人材の育成を希望したい。
- ・将来福島の地で貢献できる人財の育成に期待をしております。
- ・再構築により、更に高度な学びと研究が可能になることや個人の選択肢が増えることで貴大学大学院の質向上が見込めるのではないのでしょうか。就職活動でも大きなアピールポイントになるはずです。
- ・福島の発展のために本当に必要だと思います。福島に本社を置く企業として、また卒業生として誇りに思うとともに産学一体となって発展していくことを応援しております。
- ・アカデミズムには自由と寛容が不可欠です。教員と学生の自由な研究を推進してください。社会的要請等もあるかとは思いますが、慎重にかつ勇気をもって理の発見に取り組んでいていただける組織になってくれることを願います。

- ・大学院再編に向け、継続的な情報提供をお願いしたい。
- ・どの学科もすばらしいと感じます。頑張ってください。
- ・新たな大学院（教育プログラム）によって、将来を見通す幅広い視野と自ら主体的に取り組む実践力を兼ね備えた人材を輩出してくれることを期待しています。

（カリキュラムに関するご意見）

- ・イノベーション人材育成の必要性については共感します。育成したい人材に必要な素養、知識、スキルまたカリキュラムなどについては民間企業にも意見を聴取しながら進めていただきたいと思います。
- ・実社会に柔軟に対応できるカリキュラムを組んでいただければと思います。
- ・再構想資料拝見しました。2つの履修パターンがある点がとても魅力的でした。ぜひ弊社に卒業生の方入社して欲しいです。また、私自身も入学したいと思うプログラム内容でした。

（リカレント教育に関するご意見）

- ・是非とも社会人枠を広く設定して欲しく思います。いろんな意味で地域の発展に繋がると考えます。
 - ・年齢を問わず、希望する方を積極的に受け入れ、学びに関する環境を構築して行って欲しい。
 - ・社会人経験をへて、更に知識を身に付けることに大きな意義があると思います。とても良い試みだと感じます。
 - ・短期間で集中的に受講できる社会人向けの講座
 - ・貴大学はこれまでも地域に根ざした大学として、地域社会の諸課題解決に向けた研究や活動に取り組み、学部再編や新たな学類創設を行われてきていますが、今回の大学院再編も、そうした積極的な姿勢が感じられるもので大変有意義であると思います。
- また、社会人でも学びやすい様々な環境整備も考えられており、期待感をもってありますが、引き続き今後も、学びの意欲がある社会人にとって魅力的な、「ここで学んでみたい」と思える大学院再編を進めて実現していただければと考えます。

（その他のご意見）

- ・いつもお世話になっております。機会がございましたら改めてご挨拶させていただければ幸いです。今後とも何卒よろしく願いいたします。
- ・弊組合における採用については、出身校（学部）枠を設定することはなく、全ての受験者に同条件で均等に機会が与えられます。

(配付資料)

令和5年4月に向けて設置構想中

福島大学 大学院が 変わる。



地域および世界の
「21世紀的課題」に取り組む
イノベーション人材の育成

Point ① コンセプト

「新しい社会のあり方を探求し、豊かで希望に満ちた新しいLife（生命、人生、生活）を創造」をコンセプトに、地域および世界の「21世紀的課題」に取り組むイノベーション人材を育成します。

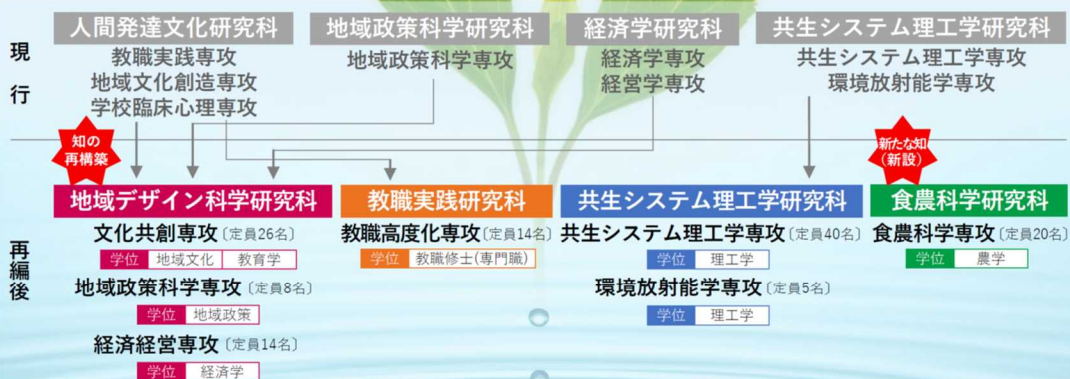
Point ② 組織再編

人文社会科学系の「知」を再構築するとともに、農学系の新たな「知」を融合させ、中核的学術拠点として、地域と共に21世紀的課題に立ち向かい、「新しい社会づくり」を先導します。

Point ③ 教育プログラム

2つの履修パターン（学際性重視型、専門性重視型）を設定し、「専門知」の深化と「総合知」を高める実践的な教育プログラムを導入します。

組織構成



入学科・授業料

(令和3年4月現在)

入学科	授業料 (年額)
282,000円	535,800円

アクセス

- 電車** 「福島駅」よりJR東北本線(約10分)「金谷川駅」下車 徒歩10分
- バス** 「福島駅東口」5番ポールから「医大経由二本松行き」に乗車「福島大学」下車 (所要時間約30分)

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。



研究科・専攻のミッション 養成するイノベーション人材像

地域デザイン科学研究科

人文社会科学の学びを通じて豊かな地域社会をデザインする

人文科学および社会科学の高度かつ体系的な学びを通じて、多様な人びとと協働しながら、**豊かな地域社会をデザイン**していく。人間・文化、地域政策・コミュニティ形成、経済・経営に係わる3つの専攻を置き、それぞれの基盤となる理論と地域社会における実践とを融合することで、新たな知を創造し、21世紀的諸課題に実践的に取り組む高度専門職業人を養成する。

文化共創専攻

人間科学の探究と融合で人間の全人的なあり方をデザインする

▶ ミッション

言語や芸術など人間社会が歴史的に創り上げてきた文化、心理、身体などの人間科学の専門的な探究・学際的な融合を通して、**人間の全人的なあり方をデザイン**していく。社会が大きく変容している現代において、高度で多様な専門的知識を持ち、地域との協働の中で**新しい価値を創造して諸問題の解決を先導**できる高度専門職業人を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・地域の文化・社会を俯瞰的・多角的にとらえ、自ら課題を発見し、多様なステークホルダーとの関係の中で、その解決を先導できる人材
- ・諸文化に新しい価値を創造・付加し、文化的に豊かな地域創成に貢献できる人材
- ・高度な専門的知識と研究力、実践力を有し、個人あるいは地域が抱える諸課題の解決に具体的にアプローチできる人材

地域政策科学専攻

地域に向き合い自治やコミュニティのあり方を再デザインする

▶ ミッション

歴史的に形成されてきた地域の**アイデンティティと多様性**を尊重しながら、地域社会の諸課題に取り組む、**自治やコミュニティのあり方を再デザイン**していく。そのために必要な学問的知見や人びとの営みを集約し、法、行政、社会、文化等の**複合的な視点**に立って、地域の諸課題を解決に導く力を持つ市民や高度専門職業人を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・地域住民の自治的な意識の涵養に寄与する人材
- ・複合的な社会問題の解決をトータルにコーディネートできる人材
- ・知識・技能・能力を実地に生かし、地域や組織をマネジメントできる人材
- ・震災後の地域振興について、当該地域に愛着をもって企画・実践できる人材

経済経営専攻

グローバルな視点で持続可能な地域経済・経営のあり方をデザインする

▶ ミッション

経済学、経営学などの諸理論や実態認識を深化させると同時に、地域経済・経営に対する実践的な政策・戦略を提示し、**持続可能な地域経済・経営のあり方**をデザインしていく。**グローバルな視点**から、地域経済・経営の抱える諸課題を理論的・実証的に把握し、その解決策を示すなど、**創造的・革新的な素養**を持った高度専門職業人を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・地域経済が抱える諸課題の本質を理論的に解明し、それらを克服するための方策を描くことができる人材
- ・地域経済が抱える諸課題を克服するための様々な方策の中から適切なものを選択し、実践的な提案ができる人材
- ・行政・NPO・市民と協働し、社会課題解決に資する事業創造を担う企業人材
- ・地域とグローバル両方の視点から事業環境、組織を分析し、諸課題を解決する企業人材

教職実践研究科

教職高度化専攻

福島県の教育を牽引できるミドル・リーダーを養成する

▶ ミッション

Society5.0時代を推進する学校Ver.3を実現するために、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて資質能力を生涯にわたって高めていく力、情報を適切に収集・選択し活用する能力等を高めるとともに、**東日本大震災・原発事故以降、大きく変容した地域を有する福島**の学校において、子ども達を「自立した人間」「**グローバル・リーダー**」へと育てることができる高度専門職業人を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・学校Ver.3を推進する学校の教師に新たに必要とされる知識や技能の修得をめざす人材
- ・教育場面において、省察する実践力・高度な授業力・アクティブな理論的探究力を備えた教師として活躍できる人材
- ・新たな教職への自覚と強い責任感を持って教師として活躍できる人材
- ・教職課程や学校のマネジメント経験を積みながら教師力を向上させていくことができる教師として、福島県の教育を牽引できるミドル・リーダーとしての人材
- ・障害のある人が積極的に参加・貢献していくことができる共生社会の実現に向けて教師として着実な実践と省察ができる人材

*グローバル・リーダー
…世界の問題を意識しつつ、それを地域で実現するリーダー

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。



研究科・専攻のミッション 養成するイノベーション人材像

共生システム理工学研究科

共生のシステム科学の下、理学と工学で21世紀的課題を解決する

理学と工学の高度な専門性に加え、地球規模の視野と多角的な視点を持つ「共生のシステム科学」という枠組みの中で、21世紀的諸課題の解決に向けた教育と研究を行う。系統的に物事を思考し、分野横断的にシステムを俯瞰しつつ、実現可能な解決方法を見出すことのできる高度専門職業人・研究者を養成する。

共生システム理工学専攻

高度な専門的教育・研究で共生の新たなシステム科学を構築する

▶ ミッション

数理・情報システム分野、物理・メカトロニクス分野、物質・エネルギー科学分野、生命・環境分野における**高度な専門的教育・研究**に取り組む。高度デジタル社会への対応、人支援技術と産業の創出、カーボンニュートラルの実現、自然環境・災害・温暖化への対応について、人-産業-環境における**共生の新たなシステム科学**の構築を志し、地域に貢献できる実践的な力を有する**高度専門職業人・研究者**を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・理論と実装の両側面の視野を備え、高度デジタル社会に適応できる人材
- ・社会に役立つ新たな「技術」や「システム」の創出を担うことのできる人材
- ・環境負荷の少ない新たな物質の創製、省エネルギー・省資源に資する製法の開発・活用を実現できる人材
- ・自然と人間との共生や安全・安心な生活の確保に貢献できる技術や実践力を有する人材

環境放射能学専攻

放射性核種の環境中の動態を解明する

▶ ミッション

地球科学および生態学など関連する学術分野を専門的に学び、**放射性核種の環境中の動態を解明**し、現象の把握やモデリングなどに取り組む。これらを通じて、環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの分野への貢献、物質循環や生物学分野の発展に寄与する**高度専門職業人・研究者**を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・人工および天然放射性核種の計測、モニタリング、評価、予測、制御などに中長期的視点と異分野協働のもと俯瞰的に対応できる人材
- ・環境放射能の自然環境への影響と予測、物質循環を多面的に捉えたモニタリングと環境管理を担う人材
- ・環境放射能による生物への放射線影響のメカニズム解明を通じて、分子から生態系レベルまでのスケールを視野に入れた環境と生物との関係再認識に取り組む人材
- ・環境放射能に関する深い専門知識と倫理観を身につけて、廃炉、中間貯蔵、最終処分などの原子力関連対策を国内外で実施できる人材

食農科学研究科

食農科学専攻

食農科学の専門性と学際性で地域課題を解決する

▶ ミッション

農林水産業は自然環境を基盤とし、食料・食品関連産業とともに**持続可能で健康的な食**を人々に供給する使命を持つ。そこで、農林水産業と食料・食品関連産業の発展に貢献する**科学技術**や**社会システム**について基盤研究と応用理論の構築を行うとともに、食農科学各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ**高度専門職業人・研究者**を養成する。

▶ 養成するイノベーション人材像

- ・食農科学専攻の高度な専門性に基づき社会の課題解決を行う人材
- ・農場から食卓までのフードチェーンを学際的視野で俯瞰的に捉え、コミュニケーション能力によって分野の壁を越えて新分野を開拓する人材
- ・高度な分析力により農林水産業と食料・食品関連産業を核として地域社会を創造する人材
- ・農と食にかかわる地球環境問題の解決のためにグローバルとローカルをつなぐ人材

働きながら学びたい方へ

- 大学院（修士課程、博士前期課程、教職大学院）の**標準修業年限**は「**2年**」です。
- 福島大学大学院では、**職業を有している等の事情**（主婦・主夫等として家事労働に従事していることを含む）により、時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えて、**3年または4年計画で修業できる「長期履修制度」**があります。
- 長期履修が認められた場合は、**授業料総額はそのまま**で、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うこととなります。
- このほか、専攻によっては、**昼夜開講制**や**土日集中開講**を導入するなど、社会人が学びやすい環境づくりに取り組んでいます。



内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。



教育プログラムの概要

学びの方向性に応じたイノベーション人材の育成

履修イメージ



教育プログラムの紹介

<p>履修パターンの選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい福島大学大学院では、これまでの専門的知識を深める学びを基本にしつつ、「学際性重視型」「専門性重視型」の2つの履修パターンを設定し、それぞれに重点を置いた学びができるように教育プログラムを一新します。 ● ご自身の描くキャリアプランや興味・関心に合わせて、専門を生かすための幅広い視点を身に付ける、あるいは専門をより一層深めることができます。 	<p>大学院基盤科目 (イノベーション・リテラシー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イノベーションの必要性やデザイン思考体験等の学びを通じて、イノベーションに必要な素養を身に付けます。 ● 大学院生全員が履修し、異分野間の交流を図ります。 ● 「学際性重視型」では、プロジェクト研究につなげるための基本プログラムを、「専門性重視型」では、各研究科・専攻の特性や分野に応じて、基本プログラムをカスタマイズして、養成するイノベーション人材像の土台を作ります。
<p>研究科 / 専攻基盤科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門性の幅を広げて一層生かしていくために、各研究領域に合わせて必要となる基盤的な科目を、研究科/専攻ごとに必要に応じて設定しています。 ● 地域デザイン科学研究科では、「地域デザイン関連科目」「多文化共生関連科目」を設定することを構想しています。 ● 専門をより重視する専攻では、あえて設定せずに専門科目を充実させる場合があります。 	<p>イノベーション科目群</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門科目のうち、イノベーション・スキルアップに資する科目を「イノベーション科目」として指定します。 ● オーラルコミュニケーションやプログラミング、データサイエンスなどの科目を構想しており、研究科の枠を超えた履修を可能とする予定です。 ● 複雑化する諸課題の解決に役立つトランスファラブルスキルを身に付けるための道しるべとなります。
<p>プロジェクト研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「学際性重視型」を選択した学生は必修として履修します。 ● 異なる分野・立場の人と協働したプロジェクトに取り組むことで、実践力、学際性、俯瞰性、トランスファラブルスキルを身に付けます。 ● 「学生組織型」と「教員組織型」があり、1セメスターから3セメスターの期間にわたって、さまざまなステークホルダーと連携し、課題設定から課題解決まで取り組みます。 	<p>(プロジェクト研究) 学生組織型と教員組織型</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生組織型は、文理融合型のチームを編成し、“学際的視点で社会課題の解決を目指す”プロジェクトを立ち上げます。 ● 全チームに研究費を配分し、審査により特に期待されるプロジェクトには、研究費を増額配分して活動を支援します。 ● 教員組織型は、福島大学が取り組んできた特色あるプロジェクトや、地域課題の公募、自身が抱える課題の解決に向けたプロジェクトに取り組みます。
<p>課題対応型プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域や社会が抱えるさまざまな課題に対応して、テーマごとにプログラムを設定し、必要な科目 (4科目8単位以上) を組み合わせることで、体系的な学びを支援するための仕組みです。 ● 「分野横断型」と「専門高度化」に大別され、プログラムは社会や時代のニーズに応じて柔軟に組み替えます。 ● プログラム修了者には修了証を発行します (履修は任意)。 	<p>(課題対応型プログラム) 分野横断型と専門高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 分野横断型では、複雑化する21世紀的課題の解決に向けて、分野の枠にとらわれない幅広い知識を修得するために必要な科目をパッケージ化しています。 ● 専門高度化では、地域や社会が求める専門人材として、特定領域の高度な知識を修得するために必要な科目をパッケージ化しています。 ● ビジネスキャリア、アグロエコロジーなどを構想中です。

内容や名称は設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。



福島大学大学院



Q1. 大学院とは、どのようなところですか？

- A1.** 学士課程を終えて、さらに研究を深めるために学ぶところで、修士課程（2年）、博士課程（3年）及び専門職学位課程（2年又は3年）があります。一般的には、**研究指導教員の元で専門的な研究を進め、学位論文にまとめます。**全国で約16万2千人が修士課程で学び、約7万5千人が博士課程で学んでいます（令和3年度学校基本調査（速報値））。

Q2. 大学院に進むと、どのようなメリットがありますか？

- A2.** メリットは、何よりも**自分の追求したいテーマで自由に研究ができる**ことです。何事にも縛られず、好きなことができる時間と空間は何物にも代えがたい貴重なものです。ゼミ活動やフィールドワーク、研究活動が中心になりますので、**社会では必須とされる論理的思考力やプレゼンテーション能力を確実に身につけることができます。**

Q3. 大学院を修了すると、どのような分野・職種に就職できますか？

- A3.** **研究者**を目指す方には大学院への進学をおすすめします。そのほかの就職先としては、文系理系を問わず、民間企業のほか国や自治体の各種機関はもちろんのこと、**専門知識を生かした職種（理系であれば技術職や研究職）など就職の選択肢が広がります。**また、**教職であれば専修免許状を取得できる**など、大学院ならではの資格取得もあります。

Q4. 福島大学大学院の特徴は、どのようなことですか？

- A4.** これまでに福島大学大学院では、修了生約2千4百人を送り出してきました。学士課程からそのまま進学する方、社会人になってから入学する方、他大学から入学する方など、**多様なニーズに合ったカリキュラムを提供**してきました。福島大学は小規模の地方大学ですが、**多くの高度専門職業人を育て、大学の研究者も育てています**（現学長も福島大学大学院を修了した一人です）。

Q5. 福島大学大学院がリニューアルされるということですが、どのように新しくなるのですか？

- A5.** 東日本大震災を経験して、また、現在の激しい社会の変化の中にあって、大学院も変わらなければならぬと考えました。社会の動きに「対応」するのではなく、**主体的に社会を「変えていく」人材育成**に舵を切ります。今日の複雑で先行きの読めない社会では、**大学院レベルの知識や技術を持った「イノベーション人材」が必要とされている**のです。

Q6. 「イノベーション人材」とは、どのような人を指すのですか？

- A6.** デジタル革命に象徴されるように、現在世界で技術革新が進んでいます。これまでのあり方を見直し、**新機軸を提案できる人**を「イノベーション人材」と呼んでいます。イノベーションはスマートフォンや自動運転などの世界を変えてしまうレベルから、目の前の生活を改善していくレベルまで、**あらゆるレベルが必要とされています。重要なのは事実に基づいた確かな問題意識をもち、それを克服しようとする熱意**です。特に日本では、海外に比べてこの種の人材育成が遅れていると言われていました。

Q7. 新しい大学院の組織は、どのように変わりますか？

- A7.** これまでは学類ごとに大学院（研究科）を置いていましたが、新しい大学院では、人間発達文化研究科、地域政策科学研究科、経済学研究科が一つにまとまり「**地域デザイン科学研究科**」となります。人間発達文化研究科の一専攻だった教職大学院は独立して「**教職実践研究科**」に、また、食農学類には新しく「**食農科学研究科**」を置く予定です。「**共生システム理工学研究科**」も含めて、大学院全体で「イノベーション人材」の養成に取り組みます。

新大学院に関する内容は、設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。

Q8. 新しい大学院では、どのような学びが展開されますか？

- A8.** 大学院での学びの基本は「専門性を深める」ことにありますが、これからは、「俯瞰性・学際性」や「課題解決力」「コミュニケーション能力」なども求められます。新しい大学院では、「学際性重視型」と「専門性重視型」の2つの履修パターンを用意しました。大学院基盤科目「イノベーション・リテラシー」を学び、「プロジェクト研究」や「課題対応型プログラム」などを組み合わせることによって、自分のニーズや興味・関心に合わせた学びを展開することができます。

Q9. 大学院では、どのように研究を進めるのですか？

- A9.** 研究科や専門領域によって多少異なりますが、一般的な修士課程は2年間で30単位以上を修得し、完成した学位論文が審査で合格すれば学位（修士）が与えられます。その間、授業の他に、フィールドに出てリサーチを行ったり、学会で研究成果を発表したりします。大学院生のコミュニティがあり、就職なども含めた研究以外の様々な情報も飛び交います。

Q10. 地域デザイン科学研究科では、どのようなことが学べますか？

- A10.** 人文系・社会系の3研究科が統合して、「地域デザイン科学研究科」が誕生します。「人間・文化」、「地域政策・コミュニティ形成」、「経済・経営」という3つの領域において、アカデミックな研究と地域社会における実践を融合することによって、新たな知を創造し、豊かな地域社会をデザインしていきます。

Q11. 教職実践研究科では、どのようなことが学べますか？

- A11.** 専門職を養成する大学院として、独立した研究科に生まれ変わります。福島県の教育を牽引できるミドル・リーダーを養成することを目的に、現職の教員と学部から進学した学生がともに、学校現場での実習と議論を積み重ね、ICTなども含めたこれからの時代に必要な教育を開拓していきます。

Q12. 共生システム理工学研究科では、どのようなことが学べますか？

- A12.** 理学と工学の高度な専門性に加え、人-産業-環境における共生の新たなシステム科学を構築し、21世紀的諸課題の解決を目指します。カーボンニュートラルや福島としては不可避の環境放射能の問題、ICTや環境問題など、現代的な課題にも取り組みながら技術者・研究者を育てていきます。

Q13. 食農科学研究科では、どのようなことが学べますか？

- A13.** 令和元年に誕生した食農学類は、福島県の農林水産業と食料・食品関連産業を発展させるという重大な使命を担っています。食農科学研究科では、学類の4つのコースの学びを継続・発展させるとともに、アグロエコロジー、農業アントレプレナーという大学院独自の先端プログラムを展開していきます。

Q14. 大学院に進学したいのですが、どのような準備が必要ですか？

- A14.** まず、大学案内や学生募集要項で、自分が進みたい大学院のどの研究室を目指すかを考えます。自分の問題意識ややりたいことを受け入れてもらえるかどうか、複数の教員に相談しましょう。また、大学院での学びや研究については、身近にいる先輩の大学院生にも直接話を聞いておきましょう。具体的な準備は研究科によって異なりますので、各研究科主催の大学院説明会に参加したり、ゼミや卒論指導の教員からも話を聞いたりして、情報を幅広く収集することが大切です。入試課で過去問をチェックすることも忘れずに。

Q15. 大学院に必要な経費は、どのくらいですか？

- A15.** 入学金282,000円と授業料535,800円は、学士課程と変わりません。フィールドワークや学会発表などの参加費や移動費が必要な場合もあります。希望があれば、有償で学類生の学修を手伝ったり（ティーチング・アシスタント）、塾講師などのアルバイトをしたりすることもできます。条件さええば、奨学金や入学金・授業料の免除を利用することもできます。

新大学院に関する内容は、設置構想中のものであり、今後変更となる場合があります。